



# 中沢かつゆき 通信

## 自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部青年局長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

## 東日本大震災

3月11日14時46分、太平洋沖を震源とする大地震が起き、未曾有の大津波を発生させました。1万人を超える犠牲者と10万人を超える人が避難所生活を送っていました。未だ多くの方が行方不明となっています。初議会以来、防災をライフワークとして取り組み、一般質問で鎌倉における課題点を指摘し、改善をお願いしてきました。大震災の報道を目にし、何かなくては、と思い東日本大震災直後、自民党鎌倉支部は募金活動を始め、大船駅をはじめとして様々な場所で多くの皆さんの温かい義捐金をお預かりさせていただきました。

東日本大震災当日は、鎌倉でも停電となり携帯電話などの通信手段の脆弱性とツイッターやUstreamといった今までにない情報伝達手段の有効性がはつきりし、メールの実用性も確認できました。しかし、時間が過ぎるにつれ、被害の甚大さに驚くとともに、只々座していることができず、2月議会が終わってすぐに被災地に向かいました。鎌倉でも物資が購入し辛くなっていましたが、支援者の方や田舎にお願いし、何とか集めて被災地に車で行きました。そこで見た光景は、とても信じられるものではありませんでした。

## 被災地に立って



大震災直後、被災地に近い温泉施設や知人に連絡をして、避難所の状況や交通手段、今必要なものなどを直接伺い、鉄板入りの安全靴やとげの刺さりにくい作業手袋、消毒剤、長靴、米などを届けさせていただき、有志の方からお預かりした義捐金も、直接お渡ししました。そして、子供たちから預かった野球ボールやグラブも直接届けました。宮古から釜石まで海岸線を走りましたが、直視できる光景ではありませんでした。瓦礫だけの空間が広がり、音が全くない、海の近くなのに鳥も飛んでいない、理解しようとしても理解できない、ただ涙しか出てこない、立ちすくむしかできない、あまりにも無力な自分だけの存在でした。しかし、ほんの少しでもいいからできることを、できるだけ長く続けられることをしようと心に決めました。

## 6月議会

初議会以来取り組んでいる防災について一般質問を行いました。3月11日発生した東日本大震災は、鎌倉市でも多くの課題を残しました。まず、子供たちは授業中でした。低学年の子供たちは下校途中で、学校では対応ができませんでした。市内小学校のいくつかでは、余震が頻発し停電中であつたにもかかわらず下校させてしまうということもありました。以前一般質問した時には、災害時には引き取り下校という答弁がありましたので、下校させた学校の対応とともに教育委員会の各学校の状況確認と指示状況について質問をしました。子供たちの情報は、通信手段の脆弱性を考え、メールを中心に各学校ごとに行い、場合によっては鎌倉市の防災メールを使うことも考えてほしいとお願いしました。今後、防災メールを拡充させ、様々な鎌倉市からの緊急情報を発信できるようにしていくよう検討するという答弁をいただきました。教育委員会には、今回の対応を踏まえて、再度災害時の避難マニュアル整備をお願いしました。学童保育については、引き取り帰宅とし、連絡の取れない学童の子供は宿泊するという対応を取りました。学童には保護者が用意するおやつが保管されており、避難してきた学童に入所していない子どもたちにも分けてあげるよう学童父母会と話してほしいとお願いしました。また、学童保育にも災害用備蓄をお願いしました。学童は共働きかひとり親家庭ということを考えて、親としては安心できた対応でした。民間保育園では、カレーを作って引き取りに来た保護者にも振る舞ったところもあります。公立保育園でも柔軟な対応をお願いしました。今までは、地震災害に対しての対応が中心でしたが、過去には鎌倉にも大津波が押し寄せてきたという事実があります。過去の被害状況を再確認し、県で見直す予定の津波被害想定に基づき、防災計画の見直しを進めてほしいとお願いしました。

## 海岸地区に「海拔表示」

伊豆半島の伊東市や熱海市などには、電柱に海拔表示があります。以前から気になっていましたので、東日本大震災直後から総合防災課に設置をお願いしました。電柱を管理している会社とも話し合っていたが、6月議会で補正予算提出していただきました。今までは、一部公園に海拔を表示したものはありましたが、今回の津波被害を考えると、高いところへまず避難するということが重要です。道路の電柱に海拔表示をすることで、より高いところへ逃げる目印になるのではないかと考えました。さらに、より近い高台方面表示も必要だと思います。被災地・旭市では、過去の津波の高さ表示も行っていました。今後防災整備を行っていくうえで、先進事例などを参考にして鎌倉市の海岸地区での安全を図っていきたいと思います。

## 中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業  
東京電機大学理工学部情報科学科卒業  
スパライズ株式会社代表取締役  
大阪観光大学観光学研究所  
客員研究員  
鎌倉中央ロータリークラブ理事  
材木座保育園保護者会会長  
にかいどう子どもの家父母会会長  
鎌倉市テコンドー協会顧問  
県議会議員中村省司秘書  
著書「安全な温泉・あぶない温泉」  
(草思社刊)

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-61-0315

## ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



\* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります \*

**花巻温泉**：東北道花巻ICからすぐのところ、花巻温泉があります。新幹線新花巻駅や岩手花巻空港に近く、アクセスのいい温泉としても有名です。昭和初期に東北の宝塚として人気を博しました。泉質は単純泉。ゆっくりつかることができる温泉です。3軒のホテルが通路でつながっていて、「湯めぐり」もできます。宮沢賢治記念館など宮沢賢治ゆかりの地として有名です。また遠野物語で有名な「遠野」にも近く、周辺観光拠点として多くの方が訪れています。「花巻温泉郷」といわれる周辺温泉地は、台温泉をはじめとする14の温泉地で成り立っています。東日本大震災で大きな被害を受けた釜石から2時間半。三陸海岸復旧・復興の観光拠点となっています。東北の復興には、観光復興が重要となってきます。多くの方が花巻温泉でのんびり温泉に浸かっていただき、周辺観光を満喫していただくことが、東北の元気にもつながります。紅葉の頃、ゆっくり訪ねたいと思っています。

<http://www.hanamakionsen.co.jp/>